

普及活動情勢報告（平成30年2月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

新規就農者の経営安定に向け、現地指導を実施



現地ほ場での指導

2月18、22日、普及所は高知市と連携し、新規就農者に対して、現地ほ場の巡回指導を行いました。

その前段の2月上旬に、それぞれの計画の達成状況や経営状況について、面談による確認を行いました。そこで明らかになった課題を踏まえ、農地の確保と栽培面積の拡大、新たな品目の拡大、現状の栽培等を指導しました。また、面談だけではわからないほ場の状況についても確認し、課題を共有しました。

普及所では、引き続き新規就農者の経営安定に向け、関係機関と連携をとった指導を行っていきます。

高知市鏡地区でユズのせん定講習会が開催



せん定の様子

2月14日に高知市鏡地区でユズのせん定講習会が開催され、生産者15名が参加しました。普及所からは、せん定のポイントや樹形等基本的なせん定技術の講習を行いました。その後、生産者各自でせん定を行い、意見交換をしました。生産者からは、せん定に関する様々な質問が出され、活発な情報交換が行われました。また、短棘系ユズの優良系統や難防除病害「幹腐病」についても情報提供しました。

今後も、普及所は基本的な栽培技術を伝えながら、少しでも収量が上がるように支援していきます。

～鮮度保持に繋げよう 三里のグロリオサ輸送試験～



箱詰めされたグロリオサ

1月23日と29日にJA高知市と協力してグロリオサの輸送試験を行いました。目的は、出荷から市場で開封されるまでの段ボール内の温湿度環境や振動を調査することで、切り花品質にどのように影響するかを確認しました。

試験経過としては、時間によっては大きな振動値が集中して検出され、市場からも「段ボールの下の花にやや傷みが見られた」とのコメントがありました。

今後は温湿度データと振動値を分析して、市場までの輸送過程で、とくに品質低下に影響の大きい要因を特定し、高品質な切り花の品質保持を目的とした輸送ができるよう検討します。

環境データの一元化説明会を行いました



現場での説明の様子

2月18日、春野町で次世代園芸推進室が進める環境データ一元化説明会を行いました。普及所は、農家の選定と説明会の開催支援を行いました。

5名のキュウリ農家は、プロファインダー、ハッピーマインダーあるいはアイファームタッチ等で、それぞれハウス環境をみており、栽培途中の環境データを生産者同士や異なる機種間で比較することはできませんでした。今回、株式会社ニッポーがクラウド上でデータを比較できるようアプリケーションを開発しました。生産者らは、データのアップロードの仕方を習うとともに、データをグラフ化し比較しました。早速、「ここの温度が低くなっちゃう」など自分の温度管理と違う点を指摘していました。

普及所では、アップされた環境データを参考に、より多収を目指した栽培管理について現場指導に役立てていきます。